

秋の北陸路

金沢別院参拝

9月22日・23日

恒例の親睦旅行（9月例会）、本年は金沢別院へ参拝することとなりました。詳細は別途ご案内致します。金沢別院は、前住職隆法が、42歳の時（昭和28年）に副輪番を勤めていたことのある縁のある別院です。

○花のたましひ

散つたお花のたましひは
み仏さまの花ぞのたましひは
ひとつ残らずうまれるの

だって、お花はやさしくて
おてんとさまが呼ぶときに
ぱつとひらいて、ほほゑんで

蝶々にあまい蜜をやり
人においひをみなくれて
風がおいでとよぶときに
やはりすなほについてゆき

なきがらさへも、ままごとの
ご飯になつてくれるから

金子みすゞ

仏教用語の解説⑥ 《出世（しゅつせ）》

会社や組織で昇進を重ね、高いポストに就いた時などに「あの人は出世した」といいます。また、小説家などがはじめて世間のことを知れるようになった作品のことや、人の出世作などと言います。地位を得たことや、高名になったことを意味し、社会において高いと非常に俗世間ぽい感じのする言葉です。これの「出世」も真正銘の仏教用語で、俗世間的どころか非常に崇高な言葉なのです。皆さんが日常によくお勤めする「正信偈」にも、「如来所出でます。唯説弥陀本願海」と、一お釈迦さまがこの世に出たの教えを説くためでありました。これは、「出世本懐」（しゅつせほんがいがい）ともいい、お釈迦様がこの世に生まれ出でられた真の目的を示しています。本来の

「出世」の意味は、「仏さまが私達を救うために、仮に人間の姿となつて、この世に生まれ出られること」をいうのです。言葉もあります。これを、私達人間が世俗のこの世を捨てて、「出家」と同じ意味です。それでは、なぜこのような崇高な意味を持つ言葉が、俗世間ぽい言葉として使われるようになるのでしょうか。昔の日本における公卿の子息は、学問を身につける人格を形成することが多く、彼らは普通（しゆん）の人達よりも早く昇進したために、「出世」という言葉が、「昇進する」という意味に使われるようになったのだと言われているように思います。その意味からも、「出世」というのは、高い地位を目指し、有名になることを目的とするよりも、まずは自分自身の足元も見つめて、必要な知識を身につけ、人格を陶冶することが大切ではないでしょうか。



題材法話

暦の上では立秋が過ぎた
のすが、まだまだ厳しい
残暑が続いています。
この暑い8月を迎えます
と、やはり日本人としては
あの悲惨な戦争を思い起こ
し、改めて平和の大切さを
願う気持ちになります。
原爆を初めとするあの戦
争の記録に触れるたびに、
二度とあのようにはあやま
は繰り返してはならないと
思うのですが、世界では今
なお戦争が耐えませんし、
ここ数十年平和が続いてき
た日本でも、朝鮮半島の緊
迫した状況を考えますと、
果たして今後どのような状
況になるのかと心配になり
ます。

日本のリーダー的存在の
人の中に、さも戦争を肯定
するかのような発言や、核
保有の可能性を示唆するが
ごとき発言があったりする
ことにも、大きな不安を感
じます。

○「兵戈無用」
(ひょうがむよう)



このように戦争に思いを
馳せる時、仏説無量寿経の
中に示されている、ある言
葉が思い起こされます。
真宗では最も大切な浄土
あります。「仏説無量寿経」
の中に、このように書かれ
ています。
「一仏の教化のおよぶとこ
ろ、国も郡も町も村も、そ
の教えのめぐみを被らぬと
ころはない。」
やかに治まり、世の中はなご
かに照り、風雨はほどよく
時に得、もろもろの災いさ
らにおおらず、国は富み、
民は安らかに、軍隊や兵器
もまったく用がなくなる」
とくに「軍隊や兵器もまっ
たく用がなく」とは、「兵
戈無用」という言葉で、仏
教の教えが広まることに
は、兵も武器（「戈」とは
ほこの意味）も用がなさな
いと示されていることに、
大きな意味を感じます。

○平和の宗教「仏教」

人々の生活に、仏教が
たところでは、戦いが
がおさまり、平和が



おとずれたという歴史は、
お釈迦様の時代でも、また
インドから中国・日本へと
仏教が伝わってきた過程の
中でも、数多く残されてい
ます。
「聖戦」とか「神のため
に」とかいう名目で、異教
徒と戦ってきた宗教は数多
いのですが、仏教は「仏さ
まのためには戦う」というこ
とはあり得ないのです。
それは、仏教が縁起の道
理を根本において、一全
てのいのちが平等であり、
すべてのいのちが生かされ
てを基本に置いて、いるか
ら「全ての命が尊く、全
ての命が大切である」と説く
の命は、まさに平和の宗教
と云われ、現在、世界の各
地で仏教が見直されはじめ
ている所以であります。

○いのちを尊びあう

感じが行うのは、涼しい人



間の都合であって、木にと
つては本来は春から夏にか
けて栄養を蓄える時期で、な
けつして適した時期ではな
いのです」といったことを
お聞きしました。
落ちたような思いが致しま
した。
私達は、平生当然のこと
と思いつながら、実は知ら
ず知らずの内に、他の生き物
を犠牲にしていることが沢
山あるのです。
知らず知らずの内にでも
このようない中心の生き
方しかできない自己中心性
すから、その自己中心性を
全面に押し出したなら、争
いが当然であります。
え、仏教は、このようない
の生き様を端的に示して、
だからこそ他のいのちを尊
ぶように勤めなければなら
ないと教えます。
平和を願うことは、ま
ず私自身が仏教・浄土真宗
の教えの中で互いの命をよ
ろこび、そして一人でも多
くの人の喜びを伝えてま
いくことであると思いま
す。

お盆講住職法話より